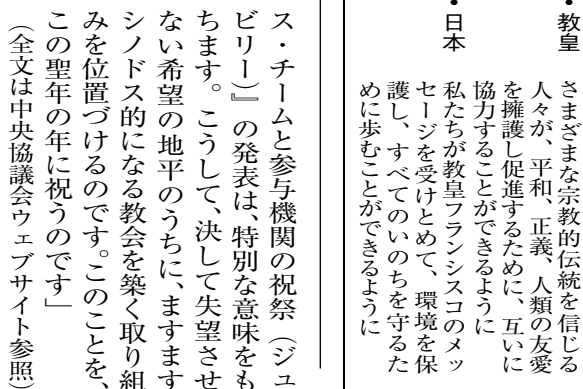


教会総会
で頂点へ



体、教会運動体、新しい共同体が関与するようにさせる責任

は、2028年10月にバチカンで『教会総会（ecclesial assembly）』が開催されることで、この歩みは頂点に達します。したがって、現時点では、新たな世界代表司教会議（シノドス）は招集されず、これまでの歩みを強固にすることに焦点が当てられます」

「2025年10月24日から26日に開催される、『シノド

なさまへ」宛てた『シノドスの道の今後について』（25年7月14日付）の文書の中で、28年の教会総会に向けての日本の教会の行程を次の通り示し、理解と協力を呼びかけている。

▼25年6月からの1年間「最終文書についての理解を深める期間」▼26年6月からの1年間「各教区、各分野で具体的に取り組みをする期間」▼27年6月からの1年間「各レベルでの評価を行う期間」。

教皇
さまざまな宗教的伝統を信じる人々が、平和、正義、人類の友愛を擁護し促進するために、互いに協力することができるよう、私たちが教皇フランシスコのメッセージを受けとめて、環境を保護し、すべてのいのちを守るために歩むことができるように」

日本カトリック司教
(担当・菊地功枢機卿)
回通常総会の最終文書
機に、さらなる「ともに
強会」「シノドス学習会」
教区からは中村倫明大
た「スタッフとして携わ
師の姿もあった。岡師に

日本カトリック司教協議会シノドス特別チーム(担当・菊地功枢機卿)は9月4日、シノドス第16回通常総会の最終文書の邦訳が出版されたことをを機に、さらなる「ともに歩む」教会となるための勉強会「シノドス学習会」を大阪で開催した。長崎教区からは中村倫明大司教と岡秋美師が参加、また、スタッフとして携わった尾高修一師と稲田伸也師の姿もあった。岡師に記事を寄せていただいた。

み心をあわせて祈った。



みを心あわせて祈った。

学習会ではシノドスの総書記を務め日本でも司牧されておられたジャン・クロード・オリツシ枢機卿（ルクセンブルク教区）の基調講演が行われ、枢機卿はフランシスコ教皇のこゝとばを用いて「シノドスとは『イベント』ではなく『プロセス』である」と、「何

かをする」とではなくともに歩む」そのこと自体が大切であることを強調された。

その後の「霊における会話」では、良い結果が出るか分からなくても、失敗するかもしれないけれども「恐れずに」「今すぐに始めること」「今すぐにとともに歩み始めること」が大事であるということなどが分かち合われた。

「ともに歩む」教会の具体的な取り組みとして長崎南地区の司祭団による毎月実施のミニ黙想会は今年11月で第20回を迎え、累計1000人以上の信徒が参加。9月21日(日)には長崎南地区女性部の第1回のど自慢大会『響け!! 天使の歌声』が行われる。

シノドスこれまでとこれから

全教会の歩み

「ともに歩む教会のためー交わり、参加、そして宣教ー」をテーマに、
 らは、第2会期で採択された「シノドスの最終文書」を基に実施する期間、

全世界の教会は2021「実施ステージ」へと進
年から24年にかけて世界
んでいる。

代表司教会議（シノドス）
第16回通常総会を進めてきた。

教皇庁シノドス事務局
は、この歩みは2028
年10月にバチカンで開催

同シノドスは21年10月9～10日に始まった。「全点に達するとしている」。

教會の成員や組織が積極的に参加する一つの大きな

な『歩み』としての形を
とりながら」(バチカン・
ニュース)、教区での分か

025年～

会期
(2日～27日)

会期

ち合いと意見交換を行
う「教区ステージ」、大陸
ごとの総会と作業を行う

★

ージ 20

総会第2
0月(10月)

総会第1

「大陸ステージ」を経て、
バチカンでの総会議（第
1会期23年10月、第2会
期24年10月）を開催し、

実施ステ

シノドス
2024年1

シノドス

シノドス流の教会
突めり、参詣 宣統
——シノドスと日本基督教団——
著者：佐々木洋子
発行所：福音館書店

（前略）… そんな中、そのうちの1点がようやく今月末に刊行の運びとなります。シノドスの最終文書です。

邦題は『シノドス流の教会 ― 交わり、参加、宣教（シノドス最終文書）』です。イタリア語が原テキストなのですが、タイトルにある「Chiesa sinodale」を「シノドス流の教会」と訳させていただきました。本書のあとがきにも書きましたが、フランスシコ教会は「シノドスはスタイルである」とおっしゃっています。つまり、あり方であり方法なのです。

それを表すのに「シノドスの教会」という表現では、なんととも弱いと考えました。それで選んだのが、「流儀」という意味での「シノドス流」です。こちらの意図が伝わる表現として、受け入れていただけるものになっているでしょうか。

これまでの通例では、シノドス後には教皇の使徒的勧告が公布されます。たとえば『キリストは生きている』は、一つ前の第15回シノドス通常総会を受けて公布された使徒的勧告です。しかし、この第16回シノドスにおいては、シノドス後の使徒的勧告は出さないと、最後の全体会議の開会あいさつで教皇が明言なさいました。最終文書が表現するもので十分だからだということです。

この最終文書の署名は、教皇フランシスコとシノドス第16回通常総会の連名になっています。これまでのシノドスでは、最終文書は教皇への答申でした。それを受けて、教皇が使徒的勧告を出す、それが一連のプロセスでした。連名であるということは、すでにこの最終文書が出された時点で、「わたしたち」ということばの中に教皇も含まれているのです。冒頭にある「教皇フランシスコによる付記」には、次のように記されています。

「わたしも、これを承認し署名してその公布を定めたことで、『最終文書』を通して聖なる忠実な神の民に語るシノドス総会の『わたしたち』に加わりました」

この付記は2024年11月24日付のものです。もし、使徒的勧告を出すという判断がされていたとしても、フランシスコ教皇にその体力は残っていなかったことと思います。フランシスコ教皇が目指したのは、すべての人を巻き込むシノドスです。わたしたち一人ひとりが、ともに歩む者として、この最終文書を大いに活用していかなければなりません。それにかなう邪託となっていれば幸いです。…

※許可をいただき 2025 年 6 月 9 日付ブログから転載。本書はすでに刊行済みです。(広報)

★
実施ステージ 2025年～

シノドス総会第2会期
2024年10月(10月2日～27日)

シノドス総会第1会期
2023年10月(10月4日～29日)

大陸ステージ
2022年8月～2023年3月

教区ステージ
2021年10月～2022年8月

具体的な活動と呼びかけ
実施しながら現在に至つ
ている。

シノドス第16回通常総
会の歩みは、まさに私た
ち長崎の教会共同体の歩
みとつながる。いつも全
世界の教会とともに歩ん
でいることを感じられる
よう願う。

3年間にわたる歩みを続けた。現在2025年からは、第2会期で採択された「シノドスの最終文書」を基に実施する期間、「実施ステージ」へと進んでいる。

教皇庁シノドス事務局は、この歩みは2028年10月にバチカンで開催される「教会総会」で頂点に達するとしている。

ドスの「過程」が始まった。その後、同年9月に教皇庁シノドス事務局が全世界の教会に対して送っていた10の質問に対する回答を各小教区評議会でもとめ、さらに各地区評議会でもとめた。

翌22年3月に「2015年の教区シノドスの提言に、今回の回答を加えたものを長崎教区としてのまとめとする」ことを

れた）教区シノドス提言推進会議において、あらためてこれからの教区シノドス提言推進の在り方を問い直すことを確認した。12月、教区シノドス担当として2人の司祭が任命された。

23年からは、11委員会の委員長と教区シノドスの担当者、司教総代理、教区本部署務局長で構成されるシノドスコアチームの

「希望の光、神よ、あなたたちに歌います。尽きぬいのちの泉、あなたを信じます。」聖年の公式賛歌を口ずさみながら巡礼に出かけられた方々も多いことだろう。教区が策定した25カ所の巡礼指定教会を主にし、各地区の教会を訪れ希望の巡礼者として聖年の祈りを唱え、賛歌を歌ったことでしょう。聖年の取り組みが浸透し、例年になく巡礼に出かけた方々を目にするのができた▲夏休み中にある教会の聖歌隊の子どもたち十数人が巡礼に訪れ、聖体訪問とお祈りの後に公式賛歌を大声で歌ってくれた。うれしさと感動が溢れて涙が出そうになった。子どもたちもこれから、次の聖年までも希望を持ってキリストと共に歩いてくれるよう願った▲巡礼を通して神のわざと信仰者のわざを見、体感し、自身を振り返り、進むべき道を見いだす。これが希望の巡礼の魅力だろう▲巡礼は本来キリスト者の生きる道、キリストが歩かれた道を辿るのが、巡礼者の道であり姿。キリストの癒やしと赦しと愛の道を。受難と死と復活の道を歩む。希望の源である神から望みの力を注がれ、希望の光に導かれて歩く。神のことばはともしび、すべてに人を照らす。散らされた人々は、み子のもとへと集められる。混迷する世界、分断する社会のただ中にある今、希望の巡礼者という信仰者の視線で歩むその足どりは遅々たるものとしても意義あるものと言えよう。(万)



被爆地長崎の80年目に思う

焼け野原に立つ天主堂

教区広報委員長 山田 良秋



6月末に早々と梅雨が明け、被爆地長崎の80年目は長すぎる夏になりました。

浦上出身の私にとって、原爆は直接ではないですが深い関わりがあります。上野町の高台にあった父の実家では、先妻と2歳から14歳の子ども6人、祖父の計8人が亡くなりました。兵隊に召集され東長崎の牧島にいて生き延びた父と、その日休暇で大橋のアパートに居たものの空襲が気になり、浜町の職場へ向かう途中八千代町辺りで市電に乗っていて鉄板の陰で助かった母とが、4年後に結ばれ、私たち兄弟姉妹は生まれました。後に、夕食の団らんの時、「原爆がなかったらお前たちは生まれとらんやったとよ」と呟いた両親のことばが耳に残ります。

写真も何も一切残っていないので、「どんな祖父ちゃんや子どもたちだったのかな」と思っても顔も分かりません。「自分は彼らの分も生きているかな」とふと思います。浦上天主堂の双塔には右側に大鐘、左側に小鐘がありましたが、小鐘は原爆で壊れ、瓦礫の中から拾い上げられた大鐘だけが80年間鳴らされてきました。

新しき朝の光のさしそむる 荒野にひびけ長崎の鐘

これは、私のただ今の気持ちを歌ったものであります。荒れ果



被爆した旧浦上天主堂の前で写真におさまる山田家。父・市太郎(長身の人物)の隣に筆者。



滅をもたらすか。それは一にかかって、私たち現代人の心によって決まるのであります。このときにあたつて、平和の鐘がよりいっそう強く、よりいっそう広く鳴ってほしいものであります。

(永井隆著「如己堂随筆」の「鐘」より)

また、床の間の上には「浦上天主堂の壊れた姿が焼け野原に立っているところを写生した墨絵」(左上の写真)が飾ってあり、いつも眺めていました。

その絵は、原爆の年の昭和20年11月23日、浦上教会跡で行われた合同葬の日に、父の実家に永井博士がふらりと立ち寄って描いたものだということでした。父が実家の焼け跡に建てたバラック小屋の縁側から浦上天主堂の廃墟を眺めて、「紙ばくれんね」というので、手元には障子紙しか無かったのでそれを渡したら、筆でさらさらと描いてくださった」という話でした。その場所は、今の聖ルドヴィコ修院の正門前の浦上教会を見下ろせる高台で、現在4階建てのアパートが建っている所です。

両親が亡くなった後、私の実家が老朽化して解体する時に、兄弟姉妹で話し合つて「この絵は多くの人に见てもらった方が良く、永井隆記念館に展示していただく」ということになり、2000年12月に寄贈しました。原爆当時の状況を鮮烈に訴えかけてくるその墨絵は、現在、永井隆記念館の展示室に置かれていますので、ぜひご覧になってください。

このような絵や書に、自分でも気がつかないうちに影響を受けていたように思います。平和を願ひながら。

高校生沖縄平和学習

戦跡を巡り、過去の事実学ぶ

8月18日(月)から20日(水)まで教区平和推進委員会主催の沖縄平和学習が開催され、高校生10人と中村倫明大司教様をはじめとする引率者の計15人が参加した。

参加者は沖縄本島南部の戦跡を巡り、今の高校生と同年代の若者が戦争に巻き込まれていった事実を学んだ。また、現在、未来の沖縄の問題を知るため、米軍辺野古基地の建設の様子が見える浜辺で、反対運動に携わる方の説明を聞き、基地によ

る環境破壊や、道の駅かなでなでは米軍の戦闘機が離発着する様子を間近で見、騒音問題などさまざまなことを学んだ。

カトリック安里教会では、那覇教区のウェイン・バーント司教様から、沖縄の歴史や安里教会が現在の場所に建てられた経緯を詳しく説明いただき、激励の言葉をいただいた。

参加者からは「実際に行って見てみると分らないこと、感じられないことがたくさんあった」「沖縄では今でも起きている被害がとても大きいことが分かった」とのコメントがあった。

私たちが温かく迎えてくださる那覇教区の皆様へ感謝するとともに、これから沖縄を通じて真の平和について学び、考え続けていきたい。

教区平和推進委員会
溝口 奈々枝



ともに歩む平和の巡礼者の集い

8月10日の動画公開

このほど、8月10日(日)に浦上教会で行われた「ともに歩む平和の巡礼者の集い」(本紙9月号既報)を記録した動画が、教区家庭委員会のYouTubeで公開された。

「2025年8月、原爆投下から80年目にあたるこの年に米国のカトリック系大学の教職員と学生からなるグループが広島と長崎を訪問し、聖年のテーマ『希望の巡礼者』を体現し、祈りと対話を生み出す目的で企画されました。(中略)この巡礼は『核兵器のない世界のためのパートナーシップ』(PNW)と協力して企画されています」(動画の紹介文から抜粋)



動画は、「被爆の実相」「学生の報告」「平和構築についての総括討論」の3つに分けて公開されている。右の写真は、高見三司大司教が被爆の実相に関し語っている場面。

*核兵器のない世界のためのパートナーシップ(PNW)：2023年8月、アメリカと日本の4つの教区(サンタフェ、シアトル、長崎、広島)が設立。24年8月に加盟(入会)の呼びかけを世界のカトリック教会の諸団体に向けて開始した。

核なき世界基金へ
寄付を送金

核なき世界基金
被爆地からのチャレンジ
みんなでのちと地球を守ろう！
<https://nuclear-free.net/>

被爆80年の今年、長崎大司教区は「核なき世界基金」への寄付のために募金を呼びかけた。集まった現金90万4590円は、8月9日の平和祈願ミサの中で奉納(本紙9月号既報)。その後、地区・小教区・個人から振込などで寄せられた献金16万99174円と合わせ、総額260万3764円を8月27日、核なき世界基金へ送金した。

同基金を支援する会は広島教区(本部)と長崎教区(支部)にあり、事務局は「核なき世界基金」を支援する会広島本部。

2025年 長崎大司教区 平和作文コンクール

各小教区や本紙8月号と9月号でご案内の通り、長崎教区は現在、「平和作文」作品を募集しています。ぜひご応募ください！

1. 応募期間
2025年7月20日(日)～10月26日(日) 必着
2. 応募対象者
長崎大司教区所属のカトリック信者の小学生、中学生、高校生。求道者も可。
3. 作文のテーマ (以下は例)
戦争と平和についての自分の決意／平和学習または平和についての教育で学んだこと／永井隆博士の本を読んで／原爆に関する動画やドキュメンタリーを見て／原爆経験者の話を聞いて
4. 応募規格
字数：400字詰め原稿用紙に縦書きで3枚以内。
1行目に「題名」、2行目・3行目に「教会名、学年」「洗礼名、氏名(ふりがな)」を記入する。
5. 提出先
作文の提出は、個人ではなく各小教区で取りまとめ以下住所にご提出ください。
〒852-8114 長崎市橋口町1番1号 長崎大司教館 平和作文コンクール担当者 あて
6. 審査・表彰
小・中・高の各部門から最優秀賞1名、優秀賞2名を選定。
最優秀賞(1名)：賞状、トロフィー、賞品
優秀賞(2名)：賞状、賞品
*審査結果は本紙『カトリック教報』12月号で発表予定。受賞作品は本紙で連載する。
7. 表彰式
2025 聖年閉幕ミサの中で表彰式を行う。
日時：2025年12月28日(日)14時～
場所：カトリック浦上教会

《コンクールに関する問い合わせ先》
カトリック香焼教会 TEL 095-871-4349
ダニエル金 桐旭師(教区シノドス文化担当)

教皇大使、白浜司教と皆さんと 聖年にあたり五島を巡礼

2025 聖年にあたり広島教区が企画した「モリーナ教皇大使・白浜司教と行く五島巡礼」が、8 月 18 日 (月) から 21 日 (木) まで 3 泊 4 日の日程で行われた。



参加者は教皇大使フランシスコ・エスカランテ・モリーナ大司教、広島教区の白浜満司教、司祭 3 人と信徒 20 人。教皇大使は 2 日目の朝、福江教会でミサを司式された。その説教の中で、五島では車窓からも教会や墓地などあちこちに十字架が見られ、カトリックの信仰を身近に感じられる。先祖が伝えた信仰をこれからも伝えていってほしいと呼びかけられた。

白浜司教は出身教会である米山教会でミサを司式され、また、直接教会の案内もなされた。

(写真は 8 月 18 日、福江空港での歓迎のとき)

7 月 27 日 (日) から 8 月 5 日 (火) にかけて、「希望の巡礼者」をテーマに、世界中の青年が一生に一度の巡礼体験を求めてローマの教皇様のもとに集まる「青年の祝祭」日本からは 2 人の司教様、7 人の司祭、40 人の青年による公式巡礼団が派遣され、長崎教区からも青年 1 人、司祭 1 人が参加し、出会いと信仰の喜びの体験することができました。



巡礼はまず、4 大バジリカ (サンパウロ大聖堂、ラテラノ大聖堂、サンタ・マリア・マジョーレ大聖堂、サンピエトロ大聖堂) の聖なる扉をくぐることを目指しました。世界中の巡礼者による行列に加わり、主の祈りとロザリオ、詩編の祈りを唱えて準備し、それぞれの扉をくぐります。美しい彫刻や聖画と歴史に触れ、聖地に來た喜びを味わいました。



次に巡礼による全免償をいただくため、神言修道会の本部修道院をお借りして、日本の巡礼団のためのゆるしの秘跡を行いました。ゆるしの体験は青年にとって実り豊かな体験となったようです。秘跡の後、ここまでの旅を振り返り、分かち合う時間も取ることができました。

最後に用意されていたのは、教皇様とともにささげる聖体賛美式とミサです。「トールヴェルカタ」という大きな広場に祭壇が設けられ、およそ 100 万人の青年が集いました。巡礼者はそこで野宿をし、晩の聖体賛美式と朝のミサを教皇様とささげます。

同行司祭 川端 志範
(教区青少年委員会 委員長)

2025 聖年 「青年の祝祭」 巡礼報告



照らされて、信仰を証ししましょう」という教皇様のメッセージ、深く心に残りました。

このご報告にあたり、



巡礼の喜びを分かち合えたことを感謝いたします。そして、ご協力・ご支援くださいました教区の皆様に心より御礼申し上げます。2027 年にはワイルドユースデー (WYD) ソウル大会が開かれます。長崎教区からも多くの参加者が集い、喜びを分かち合えることを願っております。

(写真は上から順に、サンピエトロ大聖堂前に集合する日本の巡礼団、トールヴェルカタ広場の教皇レオ 14 世、皆で野宿した会場の様子)

二度目の出会い

参加者 大口 暖翔
(浦上教会所属)

私がこのローマ巡礼で印象に残っていることは、教皇フランシスコのご遺体 (棺) を見たことです。2019 年 11 月に教皇フランシスコが長崎へ来日された時にお会いしたので、聖年を迎えた今年もう一度お会いできることをとても楽しみにしていました。しかし、4 月に亡くなられてもう一度会うことはかないませんでした。埋葬されているサンタ・マリア・マジョーレ大聖堂でご遺体を見たとき、とても寂しい

私がこのローマ巡礼で印象に残っていることは、教皇フランシスコのご遺体 (棺) を見たことです。2019 年 11 月に教皇フランシスコが長崎へ来日された時にお会いしたので、聖年を迎えた今年もう一度お会いできることをとても楽しみにしていました。しかし、4 月に亡くなられてもう一度会うことはかないませんでした。埋葬されているサンタ・マリア・マジョーレ大聖堂でご遺体を見たとき、とても寂しい



写真は上から 1 字方向に、教皇フランシスコの墓、ラテラノ大聖堂前でポーズを取る「長崎組」3 人 (右から川端司祭、大口さん、ローマ留学中の稲田祐馬司祭)、教皇フランシスコが埋葬されているサンタ・マリア・マジョーレ大聖堂、参加した青年たちと一緒に写る大口さん (左)。

教皇レオ 14 世は 9 月 7 日 (日) バチカンで、2 人の若いイタリア人信徒、福者ビエル・ジョルジョ・フラッサーティ (1901~1925 年) と福者カルロ・アクリティス (1991~2006 年) の列聖式を執り行われた。

2 人の若き福者の列聖式

9 月 7 日、バチカンで行われる

初、アクリティスが聖年行事「ティーンエイジャーの祝祭」に合わせ 4 月 27 日に予定され、フラッサーティが「青年の祝祭」に合わせ 7 月 28 日から 8 月 3 日の間に想定されていたが、教皇フランシスコの逝去によって延期・未定となり、その後、今回の日程に決定となっていた。

教皇レオ 14 世が執り行う列聖式は、教皇が今年 5 月 8 日に選出されて以降初めて、バチカン・ニュースの映像を見ると、列聖式会場に集った人々は、新聖人の肖像や国旗・シンボル旗を手にしながら、祈り、感謝と喜びを分かち合っていた様子だった。

聖年閉幕まで約 3 カ月

「希望の巡礼者」をテーマとする 2025 聖年。バチカンが 2026 年 1 月 6 日に、また、世界各地の教区が 2025 年 12 月 28 日に閉幕ミサを迎えるまで約 3 カ月となった。聖年の期間に特別にいただく恵みに感謝しながら、残りの日々も祈りのうちに過ごしていきたい。

長崎教区においては 11 月 24 日 (月) 10 時 30 分から浦上教会で、教区典礼委員会主催の集いが予定されている。内容は左記の通り。

11 月 24 日 (月) 浦上教会 聖歌隊の祝祭

10:30 みんなで歌う
11:30 みんなで聴く
昼食 (各自で)
13:00 みんなで練習
14:00 みんなでささげる
(大司教司式歌ミサ)

【お問い合わせ】典礼委員会
平本神父・佐々教会
TEL 0956-59-5559

カトリック城山教会 慰めの聖母墓地



所在地 長崎市西町 366 番地 駐車場 4 台分あり
納骨堂 1 基 90 万円 区画: 120cm x 120cm
納骨室 1 室 70 万円 区画: 90cm x 90cm
骨壺の大きさ 幅 18cm・高さ 21cm 以下
※上記いずれも管理費 1 区画 3,000 円 / 年。
共同納骨室「ラザロの家」 条件あり (無縁者、墓じまい)
1 壺 10 万円 骨壺の大きさ 幅 18cm・高さ 21cm 以下
※上記は永代使用権料。諸費用 5,000 円。

毎年 5 月にロザリオの集い・11 月に追悼ミサが墓地で行われます。
毎月第 3 日曜日にお墓の相談会を城山教会信徒会館で実施しています。

カトリック城山教会 慰めの聖母墓地管理委員会
〒852-8023 長崎市若草町 6 番 5 号 TEL 095-844-9208

タンスの中身は入れたまま責任ある安全運送!!
(見積り無料・荷造り発送も致します)

24 時間営業・年中無休
受付時間 7:00~22:00
水浦運送

シモン 水浦 幹雄
長崎市上野町 12-3
TEL (095) 44847-7151
携帯 090-7923-9005

相続登記はお済みですか

土地・建物・会社・法人の登記手続 相続手続
遺言書の作成 相続土地の国庫帰属手続 など
まずは、お電話を!!

司法書士 行政書士 山下 緑 事務所

ミカエル 山下 緑

〒854-0014 諫早市東小路町 10-21 電話 0957-22-6177

福者シャミナード 列福25周年記念式典

ミサと特別講演―海星学園

9月5日(金)午前10時から、海星学園主催による「福者シャミナード列福25周年記念式典」が長崎ブリックホールで行われた。

教育理念を共有した。ミサの中で坪光正躬神父(海星学園理事長)は、マリア会創立者福者シャミナード神父について次のように語った。

高校生一泊黙想会

『希望の巡礼者』歌い、教区内を巡礼

記念ミサは中村倫明大司教様の司式により執り行われ、ミサの後、「魚食文化の語り部」として活躍する生田典克氏(海星学園の姉妹校・暁星中学高等学校出身)の記念講演「神様と魚屋」があった。海星中学高等学校生徒とその保護者、教職員合わせて約1200人が集い、マリア会創立者の

8月11日(月)・12日(火) 青少年委員会では高校生の一泊黙想会を行いました。今年の黙想会は教区内の巡礼です。参加者は高校生5人、司祭6人、お告げシスター12人、青年1人です。



1日目は長崎地区巡り。浦上教会で旅の恵みを祈り、ゆるしの秘跡をささげ、巡礼の心を準備します。次にお告げのマリア修道会本部修道院へ。



シスターに温かく迎えていただき、聖年の公式聖歌『希望の巡礼者』を歌いました。

『このほど、ジャック・フィリップ神父(1947年)の著書『司祭の霊的父性―土の器の中の宝』が発行された。翻訳・出版を手掛けたのは2021年に一人で出版業を始めた長与教会信徒の戸口民也さん(長崎外国語大学名誉教授。現在、ウェブサイトを通じて電子書籍の形式で販売されている同書。発行に至った思いなどを分かち合っていた。』

『司祭の霊的父性』発行

父性は大きな喜びの源泉

長与教会信徒 戸口民也



この8月にフランスの司祭ジャック・フィリップの『司祭の霊的父性』という本を翻訳・出版しました。なぜこの本を？それは、フィリップ神父がこの本のはじめで語っている次の言葉に共感したからです。

「この小著を通じて、わたしの兄弟である司祭たちを励ますことができます。彼らはそれを大いに必要としていますから、その召命の豊かさ美しさを信じられるよう助けたいと思っています。司祭の召命はとも難しく骨の折れるものですが、父性は大きな喜びの源泉でもあるのです。命を伝えることほど美しいことはありません。」

「司祭の霊的父性」に話を戻せば、この本は司祭だけではなく、一家の父親、教師、組織や共同体で指導的な立場にある人にも示唆を与えてくれるでしょう。それは男性だけに限りません。同じような立場にある女性たちや一家の母親にも、「父性」とはどのようなものか、を、さらには「母性」についても考える機会となるに違いありません。

新刊良書

★アシジからの風
著リチャード・ヴァン・ホアイ
教会裏の土手の一部が崩落した中野教会(宝亀小教区)への見舞金として、平戸地区評議会へ20万円を送金した(9月10日)。

三ツ山教会へのファックスと送付物について
三ツ山(長崎中地区)と長与(長崎中地区)の主任を兼務している竹谷誠師は長与教会に常駐しています。そのため三ツ山教会へのファックスと送付物は、長与教会へお送りください。(Fax 095・887・1688)。ただし、三ツ山教会の電話はそのまま使用します。

感謝
―香典返し―
長崎大司教区
●匿名様(三浦町)
●向井美恵子様(黒崎)
故トマ向井茂吉様
右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

大司教館事務所 業務時間のご案内

《住所》カトリック長崎大司教館内
〒852-8114 長崎市橋口町1番1号

【1階】

総合受付 日～土曜日 毎日 08:00～18:00
電話 095-843-4188 (代表)
FAX 095-843-4322

法人事務所(会計事務室) 日曜日は休み
祝祭日を含む月～土曜日 08:30～17:30
電話 095-846-4248 FAX 095-848-8310

【2階】

教区本部事務局・諸委員会 土・祝日は休み
日～金曜日 08:30～17:30
電話 095-842-4450 FAX 095-842-4460

生涯養成委員会 日・月・祝日は休み
火～土曜日 08:30～17:30
電話 095-841-7731 FAX 095-842-4460

広報委員会 土・日・祝日は休み
月～金曜日 08:30～17:30
電話 095-843-3869 FAX 095-842-4460
(2025年4月から)

小学生ドッジボール大会

みんなで応援、盛り上がり―上五島



8月10日(日) 13時から、上五島地区小学生ドッジボール大会が行われた。昨年は熱中症警戒アラートが出ていたため中止となり、今年は暑さ対策としてエアコンが導入されている新上五島町石油備蓄記念会館で大会が行われた。

上五島地区の11小教区をそれぞれ合同チームとして事前に4チーム(1チーム9人)編成し、試合が行われた。総当たり戦で2コートに分かれ3試合ずつ行った結果、優勝は青砂ヶ浦・鯛の浦・浜串合同チーム、準優勝は桐・土井ノ浦合同チーム、3位は青方・丸尾・仲知合同チームとなった。

決勝戦が行われた際にはみんなで応援をし、大きな盛り上がりを見せた。

お知らせ
今年7月、大雨により二葉募金からの支援念ミサ 10月12日(日)9

追悼ミサ 11月8日(土) 14時、西坂・聖フィリッポ教会。ゆりの会主催。

カリス通信
 社会福祉法人に関わる保険のご紹介

社会福祉法人の事業は、児童福祉や老人福祉等多岐にわたるため、様々なリスクがあります。あらゆるリスクに対応する保険をご紹介します。

<役員賠償責任保険>
職員を含む第三者および法人から役員個人が提訴された場合において、役員個人が責任を負った場合の損害賠償金・争訟費用等を補償します。資産運用に失敗して損害賠償を提起された場合等に対応します。

<介護サービス事業者賠償責任保険>
介護サービスは、介護施設の欠陥、入浴介助時のケガ、利用者の行方不明に伴う経済損失等様々なリスクが存在します。事業の遂行に伴う各種対人・対物事故等を包括的に補償します。

※本ご案内は「役員賠償責任保険」「介護サービス事業者賠償責任保険」「サイバーリスク保険」「医師賠償責任保険」の概要をご紹介します。保険の内容はパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である団体の代表者の方にお渡ししてあります保険約款によりますが、ご不明の点がありましたらカリスまでお問い合わせください。

カトリック共済システム 有限会社 **カリス** 連絡先 ☎ 0120-77-0033

10月号

<サイバーリスク保険>
個人情報漏えいが発生した場合の「個人情報保護委員会への報告」「被害者本人への通知」が義務化され、多くの個人情報を取り扱う社会福祉法人にとって情報管理は重要な課題です。情報漏えいにより顧客から訴訟を受けた場合などの損害賠償、不正アクセス等に起因する各種対応費用、再発防止費用等を補償します。

<医師賠償責任保険>
医師の医療行為ミスにより生じた患者の身体障害についての損害賠償責任を補償します。

ご不明点や詳細につきましては、カリスまでお問い合わせください。

私たちが、大澤阿紀子 大西 晃 毛利玲子 にお守りします。 服部秀昭 川口 薫神父(顧問)

25TC-002213 (2025年8月作成)
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社